

北海道教育の日協賛事業  
**ふれあい2012 in 鹿追**  
～今年のテーマは『ハロウィーン』～



10月21日(日)、今年で13回目となる北海道教育の日協賛事業「ふれあい2012 in鹿追」が鹿追小学校をメイン会場に開催されました。町内の保育園・幼稚園児・小中高生と、保護者・地域住民・教育関係者の計257人が集まりました。今年は「ハロウィーン」をテーマに、午前中はゲームや商店街のウォークラリー、午後からはPRポスター作りやグループ座談会など、子どもたちと保護者・地域の人々との関わりや中高生のリーダーシップを大切にさまざまな活動が行われました。

中高生が準備や当日の進行などに大活躍し、保護者や地域の皆さまより協力をいただき大変盛り上がった行事となり、異世代の交流も深めることができました。

**開会式**



小中高の代表による「ふれあい宣言」でスタート

**アイス・ブレイク**



ゲームや自己紹介では、仲良し高校生が楽しく進めてくれました

**昼食**



今年もおいしかったPTAの手作りカレー

**ハロウィーン・ウォークラリー**



日本人英語教師（JTE）による英語でのハロウィーン紹介

**PRポスター作り**



できあがったポスターはお店などで見られます



トリック オア トリート！ お菓子をくれないといたずらするぞ！



お菓子和シールをもらって大喜び

**グループ座談会**



PTA役員の皆さんが司会をしてくださいました



高校生リーダーによる各グループの発表

神田日勝記念美術館では、マント作りをしました

次はどこに行くの？

**平成24年度鹿追町小中高一貫教育研究大会を終えて**  
～一貫教育の新たな一歩～

鹿追町小中高一貫教育推進会議 委員長（北海道鹿追高等学校 校長） 菅原 浩



9月21日、290人を超える参加の下「鹿追町小中高一貫教育研究大会」を開催いたしました。

研究大会では、午前に鹿追小学校・鹿追中学校・鹿追高校を会場とし、町内全ての小・中学校そして高校の8校が、数学・環境そして英語教育に関する授業を公開しました。午後は町民ホールに会場を移し、鹿追高校3年生がストニブレイン町の生徒たち

と、環境や資源保護をテーマに英語で討論している映像を見ていただきました。

全体会の講演では、今期より本研究の運営指導委員長をしていただいております、北星学園大学教授 小野有五先生に講演をいただき、本町の一貫教育に多くの示唆をいただきました。鹿追町の一貫教育は「カナダ学」から始まり、新たに「新地球学」という環境教育を加え、日々進化しています。その評価は道内外で非常に高く、他に誇れる教育内容と自負しております。

来年度もこの研究成果を検証するため、研究大会を実施する予定であります。

これからも、さらに教育の質の向上を目指し努力してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

●平成24年度鹿追町小中高一貫教育研究大会 講演概要

「地域を知り、世界を知る  
—これからの小中高一貫教育に求められるもの—」

北星学園大学経済学部教授 小野 有五 氏



■地震

世界には、大きな地震が起きていない場所と毎日のように起きている場所がある。カナダではほとんど無い。日本は4つのプレートがぶつかっているため地震が多い（3・11は太平洋プレートが北米プレートの下に沈み込むことにより起きた）。また直下型地震も多い。

日本列島は他の国と違う。それを子どもたちも学習しなければならない。

■自然環境

グリーンランドの地質（雪質）調査では、二酸化炭素の濃度が上がっている。今世紀末には、現在の2倍くらいになる可能性がある。ゴミの始末や原発の問題などは先送りしてはならない。持続可能な開発のための教育（ESD；Education for Sustainable Development）を考えると「今だけ良ければ・・・」ではだめである。

地域に最も適した再生可能エネルギーを考えていくことが大切。十勝は冬の日照率が高く、太陽光発電などが適している。

■鹿追のジオパーク構想

世界で最初の、凍土と火山をキーワードとしたユニークな取り組みである。また、学校教育との連携が既に図られていることも鹿追の有利な点である。そのような中で、ガイドの養成や雇用、エコツーリズム\*と先住民との関わりなども含め連携していくことにより、一層素晴らしい新地球学ができていくのではないかと考える。

\*エコツーリズム：自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること